

171 間質性肺炎合併肺癌に対する革新的治療法の構築

前田 亮

間質性肺炎合併肺癌患者に対してのがん治療は、その急性増悪という観点から、十分になされていないのが現状である。間質性肺炎合併肺癌患者に対する新たな治療戦略を構築することが本研究の目的であり、間質性肺炎の肺の微小環境自体が既存の肺癌の悪性を高める因子として働いているのではないかと仮説を立て研究を開始した。マウスモデルにおいて、間質性肺炎における肺微小環境が、肺癌のリンパ節転移、対側肺転移を促進させることを示した。さらに、間質性肺炎合併肺癌の進展に対して、間質性肺炎治療薬である抗線維化薬ピルフェニドンが効果を示すことを立証した。抗線維化薬を投与し間質性肺炎を制御することが、間質性肺炎合併肺癌に対する新規治療戦略となり得る可能性が示唆された。

間質性肺炎における肺微小環境は、肺癌のリンパ節転移、対側肺転移を促進させる

